

2016年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—文芸学部—

文芸学部長 村瀬 鋼

今年度前期の授業評価アンケートは、313科目を実施対象科目として293科目から回答が得られ、実施率は昨年度前期(220科目中206科目から回答を得た)とほぼ同程度の93.6%となった。これは、科目担当教員の間にはアンケート実施の意義についての意識が十分に浸透していることを示していると言えよう。実施必須の189科目については184科目、97.4%の実施率であるが、これについては、過去に例があったように、できれば100%の実施を実現したいと考える。

さて、集計結果についてであるが、全体としてはおおむね満足のできる数値を示しており、文芸学部の授業が大略健全に運営されていることが窺われる。1から14までの全ての設問において、本学部の平均値は大学全体の平均値を上回っており、他学部と比較しても相対的に高水準である。大学全体の平均値からして、既に、設問9と14を除いて全て4以上の評価という、十分に満足のいく数値であるが、それを上回る数値を示している本学部は、学生を十分に満足させる授業の展開という点に関して決して恥ずかしくない現状にあると言えよう。

また、昨年度前期と比較してみると、1から14までの全設問中、2から14までの設問において、平均値はおおむね0.1ポイント程度の上昇を見ている。(設問番号)昨年度平均値→今年度平均値、という仕方で順に示せば、(2) 4.15→4.22、(3) 4.32→4.41、(4) 4.32→4.44、(5) 4.22→4.30、(6) 4.00→4.12、(7) 4.31→4.40、(8) 4.38→4.48、(9) 4.03→4.11、(10) 4.34→4.43、(11) 4.17→4.31、(12) 4.29→4.42、(13) 4.18→4.28、(14) 3.37→3.54、となっている。本学部に限らず、大学全体に関してもこの同じ上昇傾向が見られるのであるが、このような結果からは、大学全体でと同様に本学部においても、教員の間で、授業評価アンケートを一つの参考として利用しながら、学生の状況と要求とに応じた授業改善の取り組みがそれなりにきちんとなされ、それが相応の成果を挙げている、ということが読み取られる。

以上から、本学部の授業運営は、総体としてはうまく行われていると判断することができるであろう。ただし、一般には公表されていない個々の科目の評価をつぶさに見ると、少数ではあるものの、評価のポイントが低く改善が強く望まれる科目も存在している。すべての一人一人の教員が、本授業評価アンケートの当初からの趣旨通り、このアンケートの結果を生かして今後の授業改善に繋げていってくれることを、ここにあらためて願う。